

令和元年度 U-16 トレセン活動報告書（但馬地区）

但馬サッカー協会 2種技術部長 三木 亮佑

◆日程

月	日	曜日	時間	会場	内容	人数
7	21	日	午後	豊岡高校	交流試合（Vs. U-15 但馬トレセン、U-14 但馬トレセン）	15
10	6	日	午後	豊岡高校	練習会（指導者：豊岡 三木）	18
11	23	土	午後	豊岡総合高校	練習会（指導者：浜坂 岡本）	25
12	22	日	午後	豊岡高校	練習会（指導者：豊岡南中 田村）・セレクション	27
1	5	日	午後	近畿大豊岡高校	練習試合（Vs. 近畿大豊岡、豊岡）	18
1	12	日	終日	淡路佐野運動公園	＜県民大会＞ Vs. 丹有(●0-4)、Vs. 東播(○1-0)	20
1	13	月	終日	淡路佐野運動公園	＜県民大会＞ Vs. 明石(●1-2)、Vs. 北摂(●0-5)	20

◆戦術（テーマ）

＜攻撃＞

- ・パスの優先順位を意識した選択
- ・裏を取る動きと裏を狙うパス
- ・サイドで数的優位を作る連携

＜守備＞

- ・前線からの連動したプレッシング
- ・2人以上で連携して奪いきる
- ・1対1（球際）のタイトな守備

◆基本フォーメーション（4-3-3）

吉盛		松原		福田	
(尾崎)		(中島)		(松田)	
		松下		松井	
		(長川)		(中川)	
浪華		西田		増田	
(岩佐)		(北山)			
		太田垣		山本	
				(守本)	
			高原		
			(中西)		

◆取り組み（有力選手の絶対数が少ないことへの対策）

- ・トレセンメンバーを固定せず、県民大会メンバーを選考するまではあまねく参加を呼び掛けている。一度でもトレセン活動に参加する意欲を持たせることで、地域として全体的なレベルアップが見込める。また自チームで満足に練習できないような困難校の選手も、練習機会が確保できる。
- ・夏季県民大会までは U-17、それ以降は U-16 のみ活動を行っている（平行して活動しない）。夏までは U-16 の選手も U-17 の活動と一緒に参加することで、夏季県民大会に U-16 年代の選手も複数人選出できている。
- ・U-16 の活動は U-15 と連携している。これにより引退後の U-15 選手のプレー機会を確保し、高校年代でも但馬サッカーを牽引できる選手を育成する狙いがある。3種のスタッフにも協働して頂いている。
- ・活動の主体を試合形式ではなく練習会形式にし、指導者間の意見交換をしている。

今年度は夏季県民大会翌週に U-16×U-15×U-14 トレセンの交流戦を行い、早期に U-16 の活動をスタートできた。また昨年度から、U-16 トレセンと、但馬から新人大会に進出する 2 チームで、年明けすぐにニューイヤーチャレンジと銘打った交流戦を行っている。練習試合の難しい時期に初蹴りのフェス的な催しにすることで、互いによりモチベーションで臨んでくれた。かつてトレセンに参加していた現高 2・高 3 生や他地域に行った選手も参加してくれるなど賑わったので、継続的に行って恒例行事にしていきたい。

◆課題と展望

- ・U-15 飛び級選手は翌々年の U-17 の主力になるべき。できる限り他地域に流出しない魅力ある地域に。
- ・夏季県民大会後、U-16 のみの活動が始まると参加人数が少なくなる。U-17 選手が夏でトレセンを“引退”してしまうのは早すぎるので、次年度からは年度を通して活動させる案がある。
- ・但馬協会技術部全体としての取り組みで、U-12 と U-13、U-15 と U-16 の活動を融合させようとしている。さらにトレセン活動を指導技術向上の場としても役立てるため、次年度からは指導者を指定して指導実践を行い、意見交換を行う予定である。また、メニューを配付するなどして選手にも還元したい。